

自然災害発生時における業務継続計画

アイユー

法人名	キャンバスゲート	種別	児童発達支援 放課後等デイサービス
代表者	青木 一芳	管理者	石原 廣保
所在地	京都府亀岡市亀岡駅北 1-5-2	電話番号	0771-21-8225

目次

Ⅰ 総論	1
(1) 基本方針	1
(2) 推進体制	1
(3) リスクの把握	2
i ハザートマップなどの確認	2
ii 被災想定	2
(4) 優先業務の選定	3
i 優先する事業	3
ii 優先する業務	3
(5) 研修・訓練の実施、BCP の検証・見直し	3
i 研修・訓練の実施	3
ii BCP の検証・見直し	3
2 平常時の対応	4
(1) 建物・設備の安全対策	4
i 人が常駐する場所の耐震措置	4
ii 設備の耐震措置	4
iii 水害対策	4
(2) 電気が止まった場合の対策	4
(3) ガスが止まった場合の対策	5
(4) 水道が止まった場合の対策	5
i 飲料水	5
ii 生活用水	5
(5) 通信が麻痺した場合の対策	5
(6) システムが停止した場合の対策	5
(7) 衛生面（トイレ等）の対策	5
i トイレ対策	5
ii 汚物対策	5
(8) 必要品の備蓄	5
(9) 資金手当て	6
3 緊急時の対応	6
(1) BCP 発動基準	6
(2) 行動基準	7
(3) 対応体制	7
(4) 対応拠点	7
(5) 安否確認	7
i 利用者の安否確認	7
ii 職員の安否確認	7

(6) 職員の参集基準	7
(7) 施設内外での避難場所・避難方法	7
(8) 重要業務の継続	8
(9) 職員の管理	8
(10) 復旧対応	8
i 破損箇所の確認	8
ii 業者連絡先一覧の整備	8
iii 情報発信（関係機関、地域、マスコミ等への説明・公表・取材対応）	9
4 他施設との連携	9
(1) 連携体制の構築	9
i 連携先との協議	9
ii 連携協定書の締結	9
iii 地域のネットワーク等の構築・参画	9
(2) 連携対応	9
i 事前準備	9
ii 利用者情報の整理	9
iii 共同訓練	10
5 地域との連携	10
(1) 被災時の職員の派遣	10
(2) 福祉避難所の運営	10
i 福祉避難所の指定	10
ii 福祉避難所の事前準備	10
6 通所サービス固有事項	10
7 更新履歴	10

I 総論

(1) 基本方針

本計画は、大地震等の自然災害や感染症の蔓延などをはじめとした突発的な経営環境の変化など不測の事態が発生しても、重要な事業を中断させない、または中断せざるを得なくなった場合であっても、可能な限り短い期間で復旧させるための方針、体制、手順等を示すものである。

(2) 推進体制

主な役割	部署・役職	氏名	補足
統括責任	災害対策委員長	石原 廣保	
BCPの策定及び見直し	BCP策定責任者	石原 廣保	
職員への研修・訓練計画	研修・訓練責任者	石原 廣保	

(3) リスクの把握

i ハザードマップ



ii 被災想定

(自治体公表の被災想定)

亀岡市の大部分で震度6弱以上の揺れが予想される。特に、桂川沿い北部と山内川、犬飼川沿いで震度7が、川沿いの低地部全域で震度6強の強い揺れが予想される。

亀岡市の低地部の大部分で液状化危険度が高いと予想される。ただし、河川沿いでも標高が高い地域は、液状化の発生確率は比較的低い。

亀岡市の中部から北部にかけてはほぼ全域で建物全壊率が10%以上を超えている。特に河川（桂川、山内川、犬飼川）沿いで建物全壊率が30%以上と大きな被害が予想されているが、南部地域は比較的被害が少ない。

(自施設で想定される影響)

非常時用携帯電話 090-3080-3648

	当日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
電力	自主電源→		復旧	→	→	→	→	→	→
飲料水	貯蔵→		復旧	→	→	→	→	→	→
生活用水	貯蔵→		復旧	→	→	→	→	→	→
ガス	使用不可(復旧待ち)			復旧	→	→	→	→	→
携帯電話	使用不可(復旧待ち)			復旧	→	→	→	→	→
メール	使用不可(復旧待ち)			復旧	→	→	→	→	→

(4) 優先業務の選定

i 優先する事業

- ・放課後等デイサービス
- ・児童発達支援

ii 優先する業務

優先業務	必要な職員数	
	14時~17時	17時~19時
直接支援	3人	3人

(5) 研修・訓練の実施、BCPの検証・見直し

i 研修・訓練の実施

定期的な訓練・研修を実施し、災害時に備えを怠らない体制を構築する。
利用者にも心構え等わかりやすく伝える。

- ・避難訓練 年2回(6月・12月)
- ・職員研修 年2回(8月・10月)

ii BCPの検証・見直し

災害対策委員会は、職員から業務継続計画(BCP)について改善すべき事項について意見を聞き、その内容を災害対策委員会の議論に反映をする。

定期的に研修会を行い、その都度評価も行なって、責任者が責任を持って承認を行う。

2 平常時の対応

(1) 建物・設備の安全対策

i 人が常駐する場所の耐震措置

場所	対応策	備考
建物	建築基準上の基準を満たしている	2023年12月建設

ii 設備の耐震措置

対象	対応策	備考
ロッカー等の設備	備え付き及び転倒防止策を行う	
消火器等の設置	設備点検を定期的に行う	
避難経路の確保	誘導灯を適切な場所に設置する	

水害対策

対象	対応策	備考
建物	消防訓練の際に災害対策委員会で点検を行う	

(2) 電気が止まった場合の対策

被災時に稼働させるべき設備と自家発電機もしくは代替策を記載する。

稼働すべき設備	自家発電もしくは代替策
PC	バッテリーの充電器の用意
照明	懐中電灯
冷暖房	毛布・カイロ
電気	発電機（ガスボンベ式）？W ?時間使用可能

（建物全体の電源のブレーカーは、1階事務室内に設置）

(3) ガスが止まった場合の対策

被災時に稼働させるべき設備と代替策を記載する。

稼働されるべき設備	代替策
ガスの使用はない	なし

(建物全体のガスの元栓は、建物外の西側に設置)

(4) 水道が止まった場合の対策

i 飲料水

職員と利用者数×2L×1日分の飲料水を確保し、保存期間に留意する。

保存期間については、避難訓練時に点検する。

ii 生活用水

職員と利用者数×2L×1日分の飲料水を確保し、保存期間に留意する。

(5) 通信が麻痺した場合の対策

事業所の携帯電話1台

バッテリーの用意をする。

携帯ラジオの用意をする。

(6) システムが停止した場合の対策

データ類の喪失に備えて、常にバックアップを行う。

(7) 衛生面（トイレ）の対策

i トイレ対策

(利用者) 簡易トイレ及び消臭固定剤を備蓄しておく。

(職員) 簡易トイレ及び消臭固定剤を備蓄しておく。

ii 汚物対策

衛生面に考慮して、建物外に保管する。

保管する際は、動物等の被害を想定した対応を心がける。

周辺地域に対して、臭いが漏れないように保管する。

(8) 必要品の備蓄

(飲料・食品)

品名	数量	消費期限	保管場所	点検担当
パンの缶詰	20個	5年	4階倉庫	管理者
ビスケット	20個	5年	4階倉庫	管理者
飲料水	2ℓ×10本	5年	4階倉庫	管理者

(医薬品・衛生用品・日用品)

品名	数量	消費期限	保管場所	点検担当
応急セット	1セット		事務室	管理者
解熱剤	1箱		事務室	管理者
乾電池	単4・単3各10	1年間	事務室	管理者

(備品)

品名	数量	消費期限	保管場所	点検担当
災害用簡易トイレ	50回分	15年	4階	管理者
カセットボンベ発電機	1台	7年(カセットボンベ)	5階	管理者

(9) 資金手当て

損害保険に加入

緊急時の資金については、教室運営費として現金を準備している。

3 緊急時の対応

(1) BCPの発動基準

(地震による発動基準)

震度5強以上の地震が発生し、被災状況や社会的混乱を総合的に勘案し、管理者が必要と判断した場合、管理者の指示によりBCPを発動し、対策本部を設置する。

(水害による発動基準)

水害が発生すると予見できる場合には、教室を閉所するため発動しない。

管理者	代替者1	代替者2
児童発達支援管理責任者	正社員のうちで年長者	正社員のうちで社歴が長い者

(2) 行動基準

利用者と職員自身の生命を守る行動を心がける。

(3) 対応体制

- ・平常時 日常点検・訓練を行う。
- ・災害直後 生命を守る行動を行う。
- ・当日 二次災害対策を行う。
- ・体制確保後 事業再開を行う。
- ・体制回復後 通常営業を行う。
- ・復旧後 評価を行う。

管理者の指示のもと実施し、管理者が不在の場合は正社員のうちで年長者がリーダーとなり意思決定を行っていく。

(4) 対応拠点

キャンパスゲート株式会社 亀岡市亀岡駅北1-5-2

(5) 安否確認

i 利用者の安否確認

(施設内)

基本的に教室利用時は、室内安否確認を行うことが可能。

ii 職員の安否確認

(自宅等)

電話・SNS 等にて利用者の安否確認を行う。

(6) 職員の参集基準

自宅等が被災していない場合は、例外なく参集となる。

(7) 施設内外での避難場所・避難方法

(施設内)

	第1次避難所	第2次避難場所
避難場所	各階エレベーター前	1階エントランス
避難方法	職員の指示に従い、落ち着いて行動する	職員の指示に従い、落ち着いて行動する

(施設外)

	第1次避難場所	第2次避難場所
避難場所	建物損壊の被害を受けない場所	駅前の芝生広場

避難方法	職員の指示に従い、落ち着いて行動する	職員の指示に従い、落ち着いて行動する
------	--------------------	--------------------

(8) 重要業務の継続

経過目安	当日	1日後	2日後	3日後
職員数	2名	3名	3名	3名
在庫量	100%	80%	60%	40%
ライフライン	停電・断水	停電・断水	停電	停電
重要業務	利用者は帰宅	減少	減少	減少

(9) 職員の管理

休憩・宿泊場所

休憩場所	宿泊場所
通常と同様に対応	不要

勤務シフト

(災害時の勤務シフト原則)

災害発生時に職員が長期間帰宅できず、長時間勤務となる可能性はないが、参集した職員の人数により、なるべく職員の体調および負担の軽減に配慮して勤務体制を組むよう災害時の勤務シフトは柔軟に取り扱うこととする。

(10) 復旧対応

i 破損箇所の確認

(建物・設備の被害点検シート例)

対象	状況 (いずれかに○)	対応事項/特記事項	
建物・設備	躯体被害	重大/軽微/問題なし	
	エレベーター	利用可能/利用不可	
	電気	通電/不通	
	水道	利用可能/利用不可	
	電話	通話可能/通話不可	
	インターネット	利用可能/利用不可	
(フロア単位) 建物・設備	ガラス	破損・飛散/破損なし	
	キャビネット	転倒あり/転倒なし	
	天井	落下あり/被害なし	
	床面	破損あり/被害なし	
	壁面	破損あり/被害なし	

	照明	破損・落下あり/被害なし	

ii 業者連絡先一覧の整備

業者名	連絡先	業務内容
株式会社柏原工務店	0773-27-3148	建築・土木・水道

iii 情報発信（関係機関、地域、マスコミ等への説明・公表・取材対応）

随時ホームページにて公表する。

4 他施設との連携

(1) 連携体制の構築

i 連携先との協議

連携先は存在しない。

ii 連携協定書の締結

現在のところ予定はない。

地域のネットワーク等の構築・参画

(連携関係のある施設・法人)

施設・法人名	連絡先	連携内容

(連携関係のある医療機関・協力医療機関)

医療機関名	連絡先	連携内容
コサカ小児科・糖尿内科医院	0771-29-2662	協力医療機関

(連携関係のある社協・行政・自治会等)

名称	連絡先	連携内容

(2) 連携対応

i 事前準備

- ・防災研修・利用者受け入れ相談・相互交流
- ・地域交流・事業所の情報発信・被災時の連絡先交換

連携協定については今後検討していく。

ii 利用者情報の整理

職員間で情報を共有している。

iii 共同訓練

教室内で行う。

5 地域との連携

(1) 被災時の職員の派遣

今後検討を行う。

(2) 福祉避難所の運営

i 福祉避難所の指定

随時対応を行う。

ii 福祉避難所開設の事前準備

随時対応を行う。

6 通所サービス固有事項

(平時からの対応)

- ・サービス提供中に被災した場合に備え、緊急連絡先の把握にあたっては、複数の連絡先や連絡手段（固定電話、携帯電話、メール等）を把握しておく。
- ・平常時から、地域の避難方法や避難場所に関する情報に留意し、地域の関係機関（行政、自治会、事業所団体等）と良好な関係を作るように工夫する。

(災害が予想される場合の対応)

- ・台風などで甚大な被害が予想される場合などにおいては、サービスの休止・縮小を余儀なくされることを想定し、あらかじめその基準を定めておくとともに、利用者やその家族にも説明する。

(災害発生時の対応)

- ・サービス提供を長時間休止する場合、必要に応じて、他事業所のサービスへの変更を検討する。
- ・利用中に被災した場合は、利用者の安否確認後、あらかじめ把握している緊急連絡先を活用し、利用者家族への安否状況の連絡を行う。利用者の安全確保や家族への連絡状況を踏まえ、順次利用者の帰宅を支援する。その際、送迎者の利用が困難な場合も考慮して、手段を検討する。帰宅にあたって、可能であれば利用者家族の協力も得る。関係機関とも連携しながら事業所での宿泊や近くの避難所への移送等で対応する。

7 更新履歴

更新日	更新内容
令和7年4月1日	自然災害発生時における業務継続計画作成